



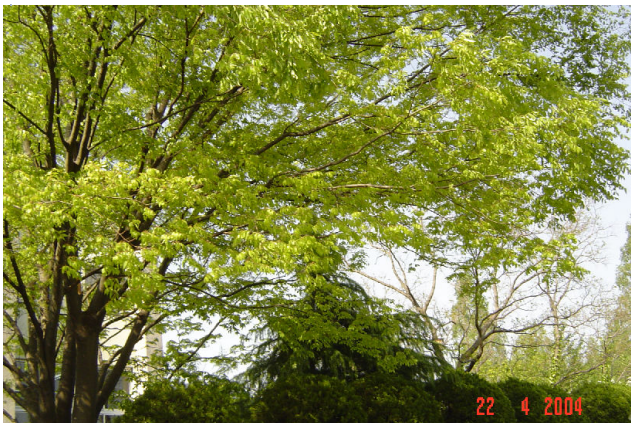
奈良学園3キャンパス（三郷、高田、登美ヶ丘）

自然通信 No1

2009、1、21(文責・©一短大:磯辺ゆう)

発刊の辞：奈良産業大学と奈良文化女子短期大学のキャンパスは、信貴山麓（三郷）、奈良盆地田園地域（高田）、市街地（登美ヶ丘）と特徴ある自然環境にあります。三郷と高田はキャンパス外だけではなく、内部でも豊かな自然が育まれています。一方、登美ヶ丘は整備中でこれからですが、近隣に植えられている木の種類は多く、見て楽しいものがあります。これら3キャンパスと周辺の特徴ある自然を、ともに楽しめるように、ここに紹介していきたいと思えます。ほぼ3か月の間隔で出す予定ですので、どうかお楽しみください。次号以降、短大HPからダウンロードして頂くこととなりますので、よろしくお願ひします。

* 共通のシンボルツリー：ケヤキ（ニレ科） *



高田キャンパスのケヤキ 春



同 秋

3つのキャンパスに共通するシンボルツリーはケヤキです。大きく育つと‘ほうき’を逆にしたような枝ぶりになって、わかりやすい木の種類です。高田ではキャンパス整備からほぼ40年、夏は緑陰を作り、秋は紅葉と落ち葉を楽しませてくれます。



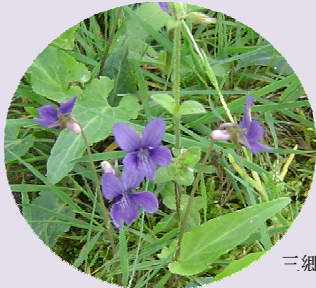
三郷

ケヤキは大木になりますが、葉は小さめで、ざらざらし左右不対称です。これは、ニレの仲間と共通の特徴です。秋の落ち葉の季節になると、細かな葉が風にくるくると舞い散ります。実も小さな葉のついた特別な枝ごと風に乗って散っていきます。葉の落ちた冬には本当に‘ほうき’のようになります。そして春が来ると、ケヤキのように太い道管をもつ樹木は、まず新たな幹の成長をし、新しい太い道管で急速に水を先端まで通します。またケヤキの若葉は一斉に出ないで、枝ごとにまとまって出ますので、その様子を下から見上げると、春が徐々に来ていることが感じられます。

・ケヤキは他の生き物と関係を持っています

高田—クマゼミ セミの幼虫はアブラゼミもクマゼミも、木の根から栄養をもらって大きくなり、羽化する時に地上に出できます。セミの抜け殻から見ると、高田では、アブラゼミは多くの樹種につきますが、クマゼミはほとんどがケヤキです。セミの各種が好きな木の種類について、意外に研究が少ないですが、京都市内の「いのちの森」でもケヤキに多いそうです。クマゼミの分布については、温暖化と関係づけられることもあります。またよくわからない部分があり、高田でのケヤキとの関係も、面白い何かを含んでいるはずですよ。

三郷—スミレ 三郷キャンパスの中央の通りにあるケヤキ並木に特有の現象は、根元にスミレがあることです。他にはほとんど見つかりません。



三郷

元来スミレは、アリと深い関係のある植物です。アリが好むゼリー(エライオソーム)を付けた小さな種(たね)を、アリが巣に運び、ゼリーを食べた後、巣の外に捨てます。こうしてアリの巣のそばにスミレの花束ができてきます。高田では、正門横の歩道の隙間にここ数年、どんどんスミレが多くなっています。ここにきっとアリが種まきをしているのでしょう。



高田



実は三郷のケヤキにもたくさんのアリがせわしく上り降りしています。それが何のためかよくわかりません。このケヤキは特に虫こぶが多く、アリはそれと関係があるのでしょうか。ともあれ、アリがよく登ることと根元にスミレが多いことは何か深い関わりがあるに違いありません。



三郷

虫こぶ: ダニ、昆虫などが寄生することで植物が反応して作ったもの。こぶ状になることが多い。栄養があったり、蜜を分泌したりして人や他の動物が利用することもある。

登美ヶ丘一人 短大正門に続く並木はケヤキと親類のニレ科の木で、葉が細かく実が冬もついています。登美ヶ丘のケヤキは、キャンパス横のバス通りで、私たちの目を楽しませています。このケヤキが一番深い関係を持っている生き物は、今のところ恐らく人でしょう。毎日多くの人の目にとまっています。



みんなで落ち葉掃除をしました。

主な参考図書・文献

- 「樹木学」ピーター・トーマス 築地書館 2001
- 「歩いて楽しむ街路樹の散歩道」 亀田龍吉・多田多恵子 山と溪谷社 2008
- 「種はどこからきたか？」 鷲谷いずみ・埴沙萌 山と溪谷社 2002
- 「いのちの森でのセミの生態調査」 右田将士 いのちの森8、25-26、2004.
- 「虫こぶハンドブック」 薄葉重 文一総合出版 2003